

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成30年8月9日
【四半期会計期間】	第50期第1四半期（自平成30年4月1日至平成30年6月30日）
【会社名】	株式会社医学生物学研究所
【英訳名】	MEDICAL&BIOLOGICAL LABORATORIES CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山田 公政
【本店の所在の場所】	名古屋市中区栄四丁目5番3号
【電話番号】	(052)238-1901（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理統括本部長 中井 邦彦
【最寄りの連絡場所】	名古屋市中区栄四丁目5番3号
【電話番号】	(052)238-1901（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理統括本部長 中井 邦彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第1四半期連結 累計期間	第50期 第1四半期連結 累計期間	第49期
会計期間	自平成29年4月1日 至平成29年6月30日	自平成30年4月1日 至平成30年6月30日	自平成29年4月1日 至平成30年3月31日
売上高 (千円)	1,709,180	1,884,956	7,072,108
経常利益又は経常損失 () (千円)	3,266	168,372	11,867
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 () (千円)	2,614	162,698	59,438
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	5,571	151,069	40,155
純資産額 (千円)	6,960,955	7,074,613	6,926,380
総資産額 (千円)	9,960,685	9,769,434	9,922,918
1株当たり四半期純利益又は1株当たり当期純損失 () (円)	0.51	31.46	11.49
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	69.9	72.4	69.8

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 4 当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「1株当たり四半期純利益又は1株当たり当期純損失()」を算定しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(試薬事業)

当第1四半期連結会計期間において、株式会社抗体研究所は清算終了いたしました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間（自平成30年4月1日至平成30年6月30日）のわが国経済は、景気の緩やかな回復傾向が続いているものの、継続的な人手不足による景気の腰折れリスクや災害の影響、米国の保護主義政策による世界的な景気減速懸念などから、依然として先行きの不透明な状況が続いております。

こうした中、当第1四半期連結累計期間は、売上高18億84百万円（前年同四半期比10.3%増）、営業利益1億23百万円（前年同四半期比10.7倍）、経常利益1億68百万円（前年同四半期は経常損失3百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益1億62百万円（前年同四半期比62.2倍）となりました。

当社の事業の柱である自己免疫疾患検査試薬、がん関連検査試薬等のIVD（体外診断用医薬品）が堅調に推移していることに加え、これまでのグループ企業再編をはじめとする各種固定費低減効果により、当第1四半期連結累計期間は当期業績見通し達成に向けて順調な滑り出しとなりました。

セグメントの経営成績は次のとおりです。

(ア) 試薬事業

臨床検査薬分野は、自己免疫疾患検査試薬が当社の利益の主軸となっています。他社との競合が激化する中、品質の高さや手厚い学術支援などを評価いただき、国内市場においては引き続き自己免疫疾患のトップメーカーとして幅広く認知され、当社試薬を採用していただいているものと分析しております。自己免疫疾患検査試薬は自動測定機器に対応したステイシアMEBLuxテストシリーズを中心に売上が伸長し、その他にもがん関連検査試薬ならびに婦人科関連検査試薬の売上も伸長したことから、当分野全体の売上高は前年同四半期を上回りました。

基礎研究用試薬分野は、成長著しい中国における積極的な拡販活動により売上は堅調に推移しております。中国市場は合成核酸試薬の売上が減少したものの、デジタルマーケットなど基礎研究用試薬の拡販に取り組んだことなどにより試薬販売が伸長し、前年同四半期並みの売上高となりました。一方国内市場においては、製薬企業に対する売上は堅調に推移していますが、依然としてアカデミアの試薬購買力が沈滞化していることから、売上高は大幅に減少しました。その結果、同分野の売上高は前年同四半期より下回りました。

IVD原料・IVD中間体分野は、中国市場におけるJSR株式会社のIVD素材の拡販活動により売上が大幅に伸長したことに加え、昨年新設したIVD中間体の製造を手がける中国子会社が当期より商業生産を開始した効果により、当分野全体の売上高は前年同四半期を大きく上回りました。

これらの結果、試薬事業全体の当第1四半期連結累計期間の売上高は18億69百万円（前年同四半期比10.4%増）となり、セグメント利益は1億21百万円（前年同四半期比14.6倍）となりました。

(イ) 投資事業

投資事業においては、ファンドの管理収入により、当第1四半期連結累計期間の売上高は15百万円（前年同四半期と同額）、セグメント利益は2百万円（前年同四半期比20.2%減）となりました。

(2) 財政状態の状況

(ア) 資産

当第1四半期連結会計期間末における総資産は97億69百万円となり、前連結会計年度末に比較して1億53百万円減少しました。

・流動資産：当第1四半期連結会計期間末で55億62百万円となり、前連結会計年度末より7百万円増加しました。
・固定資産：当第1四半期連結会計期間末で42億6百万円となり、前連結会計年度末より1億61百万円減少しました。

- 1) 有形固定資産は25億56百万円となり、前連結会計年度末より1億60百万円減少しました。
これは主に、建設仮勘定が1億51百万円減少したためです。
- 2) 無形固定資産は2億45百万円となり、前連結会計年度末より1億22百万円増加しました。
これは主に、その他に含まれるソフトウェアが1億22百万円増加したためです。
- 3) 投資その他の資産は14億3百万円となり、前連結会計年度末より1億23百万円減少しました。
これは主に、その他に含まれる出資金が1億30百万円減少したためです。

(イ) 負債

当第1四半期連結会計期間末における負債の額は26億94百万円となり、前連結会計年度末に比較して3億1百万円減少しました。

・流動負債：当第1四半期連結会計期間末で18億96百万円となり、前連結会計年度末より1億72百万円減少しました。

これは主に、その他に含まれる未払金が2億31百万円減少したためです。

・固定負債：当第1四半期連結会計期間末で7億98百万円となり、前連結会計年度末より1億29百万円減少しました。

これは主に、長期借入金が1億24百万円減少したためです。

(ウ) 純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産の額は70億74百万円となり、前連結会計年度末に比較して1億48百万円増加しました。

自己資本比率は72.4%（前連結会計年度末は69.8%）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、2億60百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成30年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成30年8月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,211,800	5,211,800	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	5,211,800	5,211,800		

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成30年4月1日～ 平成30年6月30日		5,211,800		4,482,936		4,198,269

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 40,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,164,700	51,647	
単元未満株式	普通株式 6,200		
発行済株式総数	5,211,800		
総株主の議決権		51,647	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社医学生物学研究所	名古屋市中区栄四丁目5番3号	40,900	-	40,900	0.78
計		40,900	-	40,900	0.78

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、名古屋監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,823,978	1,722,968
受取手形及び売掛金	1,728,070	1,826,406
商品及び製品	922,915	937,640
仕掛品	562,600	537,878
原材料及び貯蔵品	441,792	454,199
その他	94,433	87,488
貸倒引当金	18,416	3,665
流動資産合計	5,555,373	5,562,916
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,705,399	1,679,485
機械装置及び運搬具(純額)	37,133	34,678
土地	96,086	96,086
リース資産(純額)	55,151	50,925
建設仮勘定	451,867	300,439
その他(純額)	371,538	394,965
有形固定資産合計	2,717,176	2,556,581
無形固定資産		
のれん	518	423
その他	122,713	245,538
無形固定資産合計	123,231	245,961
投資その他の資産		
投資有価証券	116,595	107,088
長期貸付金	96,345	64,193
関係会社長期貸付金	951,490	983,664
長期前払費用	151,733	137,692
その他	553,492	387,799
貸倒引当金	342,521	276,463
投資その他の資産合計	1,527,136	1,403,975
固定資産合計	4,367,545	4,206,518
資産合計	9,922,918	9,769,434

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	278,794	312,492
短期借入金	994,996	954,996
未払法人税等	52,037	31,053
その他	742,862	597,682
流動負債合計	2,068,689	1,896,224
固定負債		
長期借入金	856,531	731,532
繰延税金負債	5,022	4,722
その他	66,294	62,342
固定負債合計	927,848	798,596
負債合計	2,996,538	2,694,821
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,482,936	4,482,936
資本剰余金	4,198,605	4,198,605
利益剰余金	1,757,711	1,597,849
自己株式	43,788	43,788
株主資本合計	6,880,041	7,039,902
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,927	21,223
為替換算調整勘定	24,412	13,486
その他の包括利益累計額合計	46,339	34,710
非支配株主持分	0	0
純資産合計	6,926,380	7,074,613
負債純資産合計	9,922,918	9,769,434

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	1,709,180	1,884,956
売上原価	718,765	846,441
売上総利益	990,415	1,038,515
販売費及び一般管理費	978,825	914,558
営業利益	11,589	123,956
営業外収益		
受取利息	5,003	4,164
為替差益	-	45,487
その他	4,595	7,219
営業外収益合計	9,598	56,871
営業外費用		
支払利息	4,410	3,227
持分法による投資損失	17,233	7,690
為替差損	2,716	-
その他	94	1,538
営業外費用合計	24,454	12,455
経常利益又は経常損失()	3,266	168,372
特別利益		
国庫補助金	9,351	-
投資有価証券売却益	999	-
貸倒引当金戻入額	-	9,884
関係会社清算益	-	2,836
特別利益合計	10,351	12,721
特別損失		
固定資産除却損	84	704
特別損失合計	84	704
税金等調整前四半期純利益	6,999	180,389
法人税、住民税及び事業税	4,384	17,691
法人税等合計	4,384	17,691
四半期純利益	2,614	162,698
非支配株主に帰属する四半期純損失()	-	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,614	162,698

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	2,614	162,698
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	999	703
為替換算調整勘定	7,101	10,500
持分法適用会社に対する持分相当額	84	425
その他の包括利益合計	8,185	11,628
四半期包括利益	5,571	151,069
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,571	151,069
非支配株主に係る四半期包括利益	-	0

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

・清算による連結除外 1社

当第1四半期連結会計期間において株式会社抗体研究所は清算終了したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対し、債務保証を行っております。

(1) 金融機関からの借入

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
MBL International Corporation	980千円	-

(2) リース債務

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
MBL International Corporation	33,567千円	28,716千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
減価償却費	82,040千円	81,707千円
のれんの償却額	108	84

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	試薬事業	投資事業			
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	1,694,180	15,000	1,709,180	-	1,709,180
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,694,180	15,000	1,709,180	-	1,709,180
セグメント利益	8,338	3,250	11,589	-	11,589

セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	試薬事業	投資事業			
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	1,869,956	15,000	1,884,956	-	1,884,956
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,869,956	15,000	1,884,956	-	1,884,956
セグメント利益	121,361	2,595	123,956	-	123,956

セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
1株当たり四半期純利益	0円51銭	31円46銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	2,614	162,698
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益(千円)	2,614	162,698
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,170	5,170

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2 平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 8月 7日

株式会社医学生物学研究所

取締役会 御中

名古屋監査法人

代表社員 公認会計士 中田 恵美 印
業務執行社員

代表社員 公認会計士 大西 正己 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社医学生物学研究所の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社医学生物学研究所及び連結子会社の平成30年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。